

## 小笠原村地球温暖化対策実行計画の実施状況等について

### <区域施策編>

#### 1. 令和6年度の点検・評価結果の総括

2024年度（令和6年度）における小笠原村全体の「温室効果ガス総排出量」は、集計の結果、17,275t-CO<sub>2</sub>となり、基準年度である2013年度の排出量18,902t-CO<sub>2</sub>と比較して、1,627t-CO<sub>2</sub>の削減となりました。

一方で、2023年度（令和5年度）からは527t-CO<sub>2</sub>増加しており、今後は、毎年850t-CO<sub>2</sub>程度の削減を行わないことには目標の達成は困難な状況です。

今後は、これまでの取組を着実に推進するとともに、防災や産業・地域の活性化を踏まえたエネルギー対策の推進やごみの減量化などの取り組みを推進し、温室効果ガスの排出量の削減に努めてまいります。

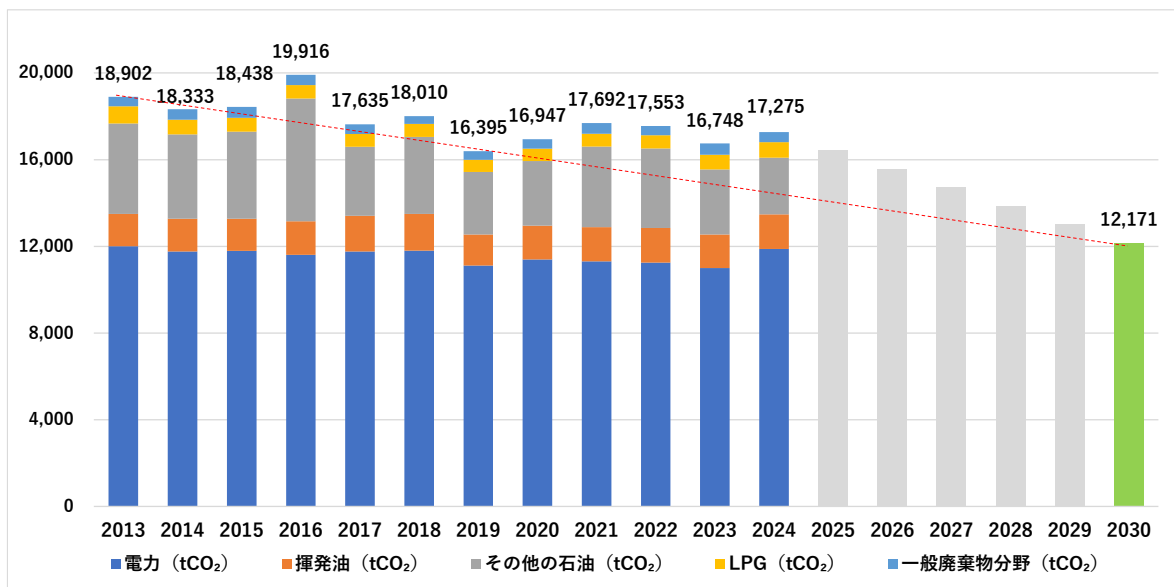
#### 2. 「温室効果ガス排出量」の削減目標と排出量の推移

##### (1) 実行計画における温室効果ガス削減目標

	基準年度（2013年度）	目標年度（2030年度）
温室効果ガス排出量	18,902[t-CO <sub>2</sub> ]	12,171[t-CO <sub>2</sub> ]
削減率	—	46%

##### (2) 温室効果ガス（二酸化炭素）の排出量の推移

図1 温室効果ガス排出量の推移



※棒グラフ灰色部分は目標達成のため毎年約850-CO<sub>2</sub>t削減が進んだ想定の数値

表 1 エネルギー別の二酸化炭素排出量の内訳（基準年度比）（単位：tCO2）

	2013 年度	2024 年度		
	【基準年度】	【実績値】	増減	削減率
電力	12,009.75	11,882.76	-126.99	-1.1%
揮発油	1,490.49	1,600.26	109.77	+7.4%
その他の石油	4,174.22	2,605.64	-1,568.57	-37.6%
LPG	794.71	716.74	-77.97	-9.8%
一般廃棄物分野	432.50	470.05	37.54	+8.7%
合計	18,901.66	17,275.44	-1,626.22	-8.6%

表 2 エネルギー別の二酸化炭素排出量の内訳（前年度比）（単位：tCO2）

	2023 年度	2024 年度		
	【前年度】	【実績値】	増減	削減率
電力	10,999.24	11,882.76	883.51	+8.0%
揮発油	1,547.94	1,600.26	52.31	+3.4%
その他の石油	2,998.56	2,605.64	-392.91	-13.1%
LPG	683.75	716.74	32.99	+4.8%
一般廃棄物分野	518.66	470.05	48.61	-9.4%
合計	16,748.15	15,348.09	1,400.06	+3.1%

（3）「温室効果ガス総排出量」の増減傾向

1）排出量の増加

- 一般廃棄物分野：基準年度比+8.7%（前年度比-9.4%）
- 揮発油：基準年度比+7.4%（前年度比+3.4%）

2）排出量の減少

- その他の石油：基準年度比-37.6%（前年度比-13.1%）
- LPG：基準年度比-9.8%（前年度比+4.8%）
- 電力：基準年度比-1.1%（前年度比+8.0%）

#### (4) 措置・取組の状況

作戦	実施状況	
	令和6年度実績	令和7年度実施見込
作戦1 みんなで取り組む脱炭素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼロカーボンワークショップ実施（1回）</li> <li>・村民だよりによる情報発信（特集号3回）</li> <li>・小学校ごみとリサイクル授業（小6授業1回 R6～新規）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脱炭素まちづくりアドバイザー受入れ</li> <li>・ゼロカーボンワークショップ実施（アドバイザー講演会1回）</li> <li>・村民だよりによる情報発信（特集号3回）</li> <li>・小学校ごみとリサイクル授業（小6授業1回）</li> <li>・ごみ分別ガイドブック全戸配布開始</li> <li>・事例収集・事業案検討</li> </ul>
作戦2 島ぐらし楽しく快適に脱炭素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ家電製品普及促進事業補助（16人19件）</li> <li>・公共施設におけるLED照明の導入</li> <li>・公用車にEV車導入（母島）R7.1</li> <li>・ZEV協定に基づく村民のEV購入支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ家電製品普及促進事業補助（30人48件：令和8年1月末時点）</li> <li>・公共施設におけるLED照明の導入</li> <li>・ZEV協定に基づく村民のEV購入支援</li> </ul>
作戦3 自然パワーで脱炭素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母島太陽光発電所建設事業の推進</li> <li>・北港バイオトイレ（太陽光パネルと共に新設）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母島太陽光発電所建設事業の推進（8月～実証試験開始）</li> </ul>
作戦4 ごみも資源だ脱炭素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品プラスチック資源回収の開始</li> <li>・資源リサイクル拠点回収の開始</li> <li>・生ごみコンポストモニター（1人用19名）実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみコンポストモニター実施（世帯用の木箱型 10人）</li> </ul>
作戦5 脱炭素型エコツーツで満喫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母島シェアサイクルの試行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母島シェアサイクルの運用開始</li> </ul>
作戦6 守れBONINの森と海	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小笠原諸島世界自然遺産管理計画に基づく森林等の適正管理</li> <li>・オガグワの森イベントなど地域と連携したイベントの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小笠原諸島世界自然遺産管理計画に基づく森林等の適正管理</li> <li>・オガグワの森イベントなど地域と連携したイベントの実施</li> </ul>

### 3. 今後の課題

#### 【作戦1 みんなで取り組む脱炭素】

- ・村民主体の広がりある活動の支援
- ・情報発信の強化

#### 【作戦2 島ぐらし楽しく快適に脱炭素】

- ・省エネ家電・EV車購入・断熱改修補助など既存の補助金利用の促進

#### 【作戦3 自然パワーで脱炭素】

- ・環境への影響・費用対効果を踏まえての導入検討

#### 【作戦4 ごみも資源だ脱炭素】

- ・さらなるごみの減量・資源化の推進

#### 【作戦5 脱炭素エコツーツで満喫】

- ・観光振興とバランスをとったうえでの事業の推進

#### 【作戦6 守れBONINの森と海】

- ・森づくりイベント等を通じた森林等の自然環境保全の機運醸成

## <事務事業編>

### 1. 令和6年度の点検・評価結果の総括

2024年度（令和6年度）における小笠原村事務・事業に係る「温室効果ガス総排出量」は、集計の結果2,494.2t-CO<sub>2</sub>となり、基準年度である2016年度の排出量2,590.0t-CO<sub>2</sub>と比較して、95.8t-CO<sub>2</sub>の削減となりました。主な公共施設の空調機器や照明機器の省エネ化が進んだことから基準年度から削減はしているものの、前年度比で1.5%の増加、2030年1,295t-CO<sub>2</sub>の目標に対してはいまだ乖離が多く、今後毎年約200t-CO<sub>2</sub>と大幅な削減を行わないことには目標の達成は困難な状況です

今後は、これまで取組を着実に推進するとともに、再生可能エネルギーの導入やごみの減量化などの取り組みをより推進し、温室効果ガスの排出量の削減に努めてまいります。

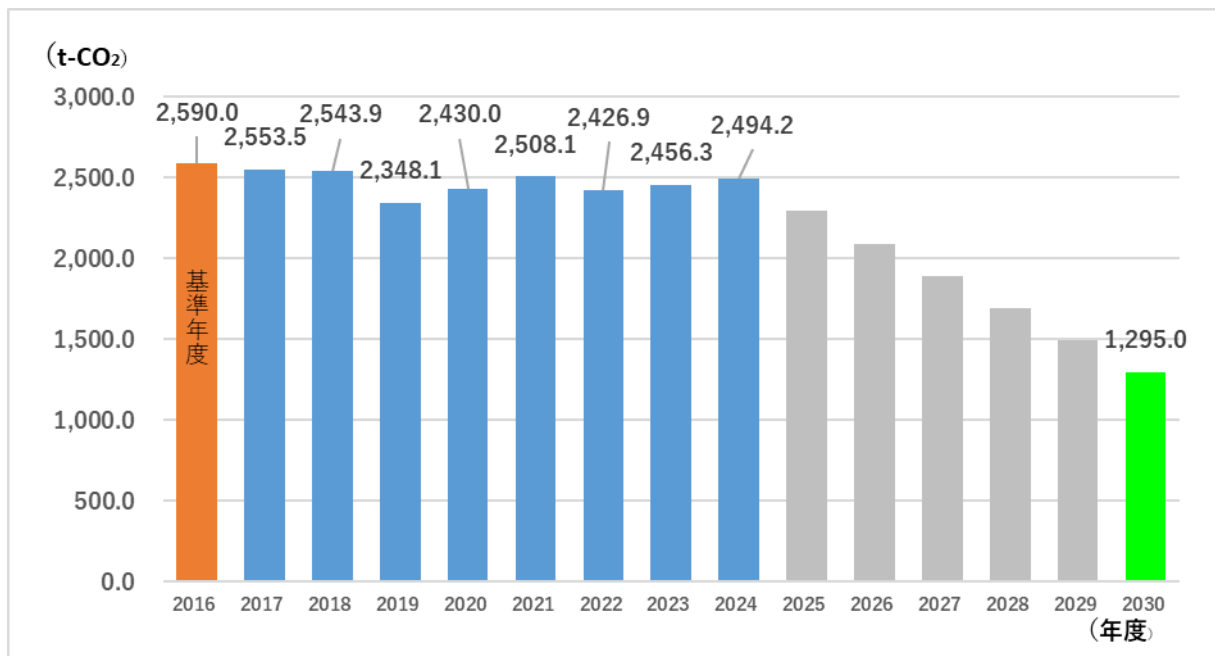
### 2. 「温室効果ガス排出量」の削減目標と排出量の推移

#### (1) 実行計画における温室効果ガス削減目標

	基準年度（2016年度）	目標年度（2030年度）
温室効果ガス排出量	2,590.0[t-CO <sub>2</sub> ]	1,295.0[t-CO <sub>2</sub> ]
削減率	—	50%

#### (2) 温室効果ガス（二酸化炭素）の排出量の推移

図2 温室効果ガス排出量の推移（事務事業）



※棒グラフ灰色部分は目標達成のため毎年約200-CO<sub>2</sub>t削減が進んだ想定の数値

表3 主な施設の電気使用量の比較

(単位：kWh)

	2016年度	2024年度		
	【基準年度】	【実績値】	増減	削減率
役場庁舎	132,242	89,752	-44,490	-32.1%
情報センター	137,501	112,413	-25,088	-18.2%
地域福祉センター	163,222	146,235	-16,987	-10.4%
小笠原村診療所	397,254	358,969	-38,285	-9.6%
扇浦浄水場	148,686	153,729	+5,043	+3.4%
父島し尿処理施設	213,699	205,411	-8,288	-3.9%
父島クリーンセンター	337,961	286,326	-51,635	-15.3%
小笠原小中学校	125,987	152,423	+26,436	+21.0%
母島小中学校	114,759	111,380	-3,379	-2.9%

表4 購入電気使用量の推移

	温室効果ガス排出量
2016年度	1,955.3(t-CO <sub>2</sub> )
2017年度	1,943.8(t-CO <sub>2</sub> )
2018年度	2,014.3(t-CO <sub>2</sub> )
2019年度	1,825.3(t-CO <sub>2</sub> )
2020年度	1,828.3(t-CO <sub>2</sub> )
2021年度	1,852.7(t-CO <sub>2</sub> )
2022年度	1,843.6(t-CO <sub>2</sub> )
2023年度	1,786.0(t-CO <sub>2</sub> )
2024年度	1,877.9(t-CO <sub>2</sub> )

表5 一般廃棄物の焼却の推移

	温室効果ガス排出量	焼却量	プラスチック類割合
2016年度	412.5(t-CO <sub>2</sub> )	677(t)	33.1%
2017年度	386.1(t-CO <sub>2</sub> )	667(t)	32.8%
2018年度	319.6(t-CO <sub>2</sub> )	618(t)	26.0%
2019年度	342.6(t-CO <sub>2</sub> )	556(t)	34.8%
2020年度	394.5(t-CO <sub>2</sub> )	603(t)	40.4%
2021年度	455.1(t-CO <sub>2</sub> )	700(t)	32.1%
2022年度	398.6(t-CO <sub>2</sub> )	685(t)	33.6%
2023年度	485.8(t-CO <sub>2</sub> )	688(t)	36.5%
2024年度	435.0(t-CO <sub>2</sub> )	670(t)	34.3%

表6 燃料使用（ガソリン、灯油、軽油、A重油、ガス）の推移

	温室効果ガス排出量
2016年度	221.9(t-CO <sub>2</sub> )
2017年度	223.6(t-CO <sub>2</sub> )
2018年度	210.0(t-CO <sub>2</sub> )
2019年度	180.2(t-CO <sub>2</sub> )
2020年度	207.1(t-CO <sub>2</sub> )
2021年度	200.3(t-CO <sub>2</sub> )
2022年度	184.8(t-CO <sub>2</sub> )
2023年度	184.5(t-CO <sub>2</sub> )
2024年度	181.3(t-CO <sub>2</sub> )

(3) 2024年度の具体的な取組内容

- 空調設備の省エネ化（小笠原村診療所、地域福祉センター）
- LED照明の導入（父島火葬場、地域福祉センター、父島クリーンセンター）
- 職員の省エネ意識の啓発

(4) 「温室効果ガス総排出量」の対前年度比増減要因

1) 排出量増加の主な要因

- 購入電気使用量の増加：+1.9%（基準年度比 -8.0%）
- 発電に伴う二酸化炭素排出係数の増加：+3.2%（基準年度比 +4.4%）

2) 排出量減少の主な要因

- 液化石油ガス使用量の減少：-17.7%（基準年度比 -21.7%）
- 一般廃棄物の焼却にかかる排出量の減少：-10.5%（基準年度比 +5.5%）

3. 今後の課題

- 日々の事務事業における省エネ意識の徹底及び資源リサイクル推進
- 公共施設における省エネ・長寿命化の推進
- 公用車の更新にあわせたEV化の検討
- 費用対効果を踏まえた公共施設への再生可能エネルギー導入